

一般社団法人 ドナーリンク・ジャパン

第2期

(2024年4月1日～2025年3月31日)

活動報告書



一般社団法人ドナーリンク・ジャパン
Donor Link Japan

一般社団法人 ドナーリンク・ジャパン

第2期

(2024年4月1日～2025年3月31日)

活動報告書

目次

第2期事業報告書・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第2期決算報告書・・・・・・・・・・・・・・・・	12
第3期事業計画書・・・・・・・・・・・・・・・・	18

第2期
(2024年4月1日～2025年3月31日)
事業報告書



(Ⅰ) 役員 (2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

代表理事	仙波 由加里
理事	久慈 直昭
理事	石塚 幸子
監査	仙波 哲夫
会計	森 和子

(Ⅱ) 登録会員数

(1) 正会員 (社員)	10 名
(2) 一般会員 (当事者会員)	10 名
(3) 賛助会員(個人)	36 名
(4) 賛助会員 (団体)	4 団体
(5) サポート会員	4 名
* リーガルアドバイザー	2 名

(Ⅲ) 業務契約

- 株式会社 OVUS (DNA マーカーリンク検査委託) (2022 年 12 月～現在に至る)
- プロボノ組織「みんなのさいわい」 (資金調達支援) (2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

(Ⅵ) 実施事業・活動報告

2024 年度は次のような事業を展開した。

(1) ドナーリンクの実施

- ・ 登録希望者への事務面談・心理面談を実施
- ・ DNA マーカーリンク検査のために、株式会社 OVUS に唾液サンプルを送付し、結果についてはデータ管理
- ・ 2024 年度においては、新規登録は、AID 出生者 3 名
- ・ 現在のところ、マッチングのケースはなし
- ・ 当事者からの問い合わせに対応

(2) 2023 年度の事業報告会（会員および一般の方に向けて）

- 2024 年 6 月 30 日（火）19：00～20：00 オンラインで開催
司会・進行は柘植あづみが担当し、それぞれの業務担当者が
2023 年の業務実績等について報告した。

当日参加者数は 50 名弱だったが、その後、録画を 1 週間ほど視聴できるように設定したため、より多くの人が事業報告会を視聴している。

全体での質問は少なく、「スタッフ（正社員）になるにはどのようなプロセスや条件があるのか」という質問が出された。



(3) 森村豊明会の助成金でのイベント開催

(ア) 2024 年 6 月 21 日（金）19：00～20：30

子どもの出自を知る権利について考える「提供者について子どもにどう伝えるか」

形式：オンライン開催

報告者：青山真侑（にじいろかぞく共同代表、AID でお子さんを持った母親）

司会・進行：石塚幸子

参加者数：45 名

② 2024 年 7 月 14 日（日）13：30～16：30

AID 出生者のフリートーク会へと変更（AID 出生者限定クローズドイベント）

形式：対面開催

場所：アットビジネスセンターPremium 新大阪 901 号室

参加者数：計 6 名（出生者 4 名、スタッフ 2 名）

③ 2024 年 8 月 4 日（日）13：30～16：30

子どもへのテリングについて一緒に考える（当事者限定クローズドイベント）

形式：対面開催（親の会とのコラボ）

場所：東京都町田市文化交流センター 5F サルビアの間

参加者数 計 14 名（親 9 名、親の会代表 1 名、スタッフ 4 名）

④ 2024 年 9 月 30 日（土）18：00～19：30

ドナー情報を探す旅を経てーサラ・ディンクルさんのご経験を伺う

形式：オンライン開催

報告者：サラ・ディンクル（オーストラリアで AID で生まれた女性）

司会・進行：仙波由加里

当日参加者：31 名

開催後 1 週間、オンラインでの配信も行ったため、より多くの人が視聴した

⑤ 2025年1月25日(木) 17:00~18:30

精子提供の闇自分の精子提供で約100人の子どもが生まれている男性の悩み

形式: オンライン開催

報告者: 大野和基(国際ジャーナリスト)

司会・進行: 仙波由加里

申込者数: 34名

開催後1週間、オンラインでの配信も行ったため、より多くの人が視聴した

⑥ 2025年2月11日(火)

緊急リレートークイベント: 特定生殖補助医療に関する法律案 国会に提出

形式: オンライン開催

報告者: AID 出生者8名、精子提供者1名、卵子提供者1名、精子・卵子提供で親になった方4名、AID 出生者の支援者2名、産婦人科医1名(計17名)

司会・進行: 柘植あづみ

当日参加者数: 181名

本イベントの録画のURLは、現在でも国会議員や関係者に提供している

⑦ 2025年2月26日(木) 18:00~19:30

オーストラリア・ヴィクトリア州 VARTA のドナーリンクのカウンセリングモデル

形式: オンライン開催

報告者: Cal Volks(オーストラリアの不妊カウンセラー)

司会・進行: 仙波由加里

申し込み者数: 32名

開催後1週間、オンラインでの配信も行ったため、より多くの人が視聴した

⑧ 2025年2月15日(土)

AID で生まれた当事者の経験と思い—木野恵美さんの場合

形式: 録画・オンライン配信(録画は2月に収録済)5月に配信予定

対談: AID 出生者: 木野恵美

インタビューアー: 仙波由加里

【イベントの広報に使われたチラシ】





(4) 三菱財団の社会福祉事業助成に採択される

- 2024年6月25日に社会福祉事業助成の採択決定通知を受けとる

対象案件：精子・卵子提供で生まれた人と提供者の心理・社会福祉支援をする専門家養成のためのテキストの開発

- 2024年9月11日に助成金贈呈式（於：東京會館）に仙波が出席



(5) ドナーリンク実践のための心理・社会福祉支援専門家を対象とする

トレーニング・ワークショップの開催（担当：才村、森、青木）

- 2025年3月15日（土）、3月16日（日）の2日間、三菱財団の助成金を活用して、ドナーリンクを実践する専門家養成のためのテキスト（ハンドブック）に含める情報の一環として、海外から講師2名と日本人講師1名を招き、日本のソーシャルワーカーやカウンセラー、臨床心理士、研究者などを対象にワークショップを開催
- 開催場所：東京都町田市文化交流センター5F サルビアの間、コスモスの間

- 1日目 3月15日 対面・オンラインのハイブリッド開催（日英の逐次通訳付）
- 参加者：対面9名／オンライン8名／講師3名／DLJスタッフ4名／通訳1名
- 主に講義を中心(司会・進行：仙波)
- 講師

★ペトラ・ソーン (Dr. Petra Thorn)：ドイツ出身

1993年以来、家族セラピストおよび不妊カウンセラーとして、プライベートカウンセリングクリニックを開業。

★アストリッド・インディケー（Dr. Astrid Indekeu）：ベルギー出身

オランダでドナーリンクを実践している Fiom でも 2018 年 9 月 2021 年 8 月まで実務についていた。

★戸田さやかさん：はらメディカルクリニック

公認心理士・臨床心理士・生殖心理カウンセラー、がん・生殖医療専門心理士、グリーフセラピスト。性や生殖補助医療の専門知識をもちいながら、カップル・家族の心理支援を行っている。

● 2日目 3月16日（日）対面開催のみ

- ・ 参加者 11 名／講師 2 名／スタッフ 5 名／学生通訳アルバイト 3 名
- ・ 外国人講師 2 名を交えて、2 グループに分かれ、ドナーリンクに関するテーマでグループディスカッション。その後、2 グループが集まって、フォローアップ



引き続き、三菱財団のプロジェクトとして、このワークショップでの講義やディスカッションでの内容をベースとして、ドナーリンクを実践する専門家のためのハンドブック（手引き）を作成する。

(6) 書籍出版プロジェクト

2024 年の 2 月にクラウドファンディングで集められた支援金をもとに、書籍出版プロジェクトをすすめた。（編集担当：石塚、柘植）

- ・ 書籍タイトル：『私は何者かを知りたい』
- ・ 出版社：晃洋書房
- ・ 刊行予定：2025 年 6 月下旬～7 月末
- ・ 執筆者
 - 精子提供で親になった人（3 名）
 - 精子提供で生まれた方のパートナー（1 名）
 - 過去に精子を提供した経験のある人（1 名）

計 12 名の当事者の体験談に加え、これに専門家のコラムを含めた内容。

- 初版印刷部数 2500 部
- 価格：1 部 2500 円＋税を予定

(7) 研究者や学生を対象としたオンライン勉強会の実施

- 2024 年 9 月 27 日（金）20：00～21：30
第 1 回 DLJ オンライン勉強会（無料）
形式：オンライン開催
報告タイトル：オランダにおける精子・卵子提供等での出生者とドナーの自発的な DNA 検査を使った登録簿—Fiom の KID-DNA データベースの 10 年間の運用経験を通して学んだこと
報告者：仙波由加里（DLJ スタッフ／お茶の水女子大学）
申込者数：54 名
- 2024 年 10 月 31 日（木）20：00～21：30
第 2 回 DLJ オンライン勉強会（無料）
形式：オンライン開催
報告タイトル：自分の精子提供者の個人特定情報の開示（identity releases）を請求した提供配偶子によって生まれた（DC）人の全国調査—スウェーデンにおける 17 年間の個人特定情報の開示の経験
報告者：柘植あづみ（DLJ スタッフ／明治学院大学）
申込者数：45 名

(8) 助成金申請

- 2024 年 12 月 Soil x Policy Fund 政策提言事業へ応募
一次審査は通過したが、二次面接で不採択

(9) 一般会員（当事者会員）の登録条件の変更（登録年齢の引き下げ）

- AID で生まれた人が一般会員に登録できる年齢を 18 歳から 15 歳に引き下げた。ただし、DNA マーカーリンク検査に申請できる年齢は 18 歳から（2024 年 5 月のスタッフ全体会議で検討および決定）

(10) 理事会の開催

- ・ 重要事項（契約関係や助成金申請、新規メンバーの承認など）について、オンラインで、理事3名が検討。
開催日：2024年4月28日、2024年9月25

(11) DLJ メンバー月例会議

2024年4月から2025年3月にかけて、月1回のペース（第2火曜日19:30より）で、オンラインで月例会議を実施。重要事項についての確認、報告、及び決定の必要なことについてメンバー全員で検討する。

開催日：2024年4月16日、5月14日（社員総会）、6月13日、7月26日、9月18日、
10月15日、11月19日、12月10日、
2025年1月14日、2月11日、3月11日

(12) ニュースレターの発行

会員に向けて、2024年4月から2025年3月末までに、ニュースレターを計12回（第14号から第25号まで）発行（NL担当：石塚）

(13) 2025年2月5日に特定生殖補助医療法案が国会に提出されたことを受けてのロビー活動を展開。スタッフ内での法案に関する勉強会なども開催

- ・ 2024年4月25日（木）石塚と仙波が公明党の秋野公造議員に会い、法案の内容や国会提出の予定などを聞く
- ・ 2025年2月17日（月）参議院会館で開かれた参議院法制局のレクチャーに、石塚と仙波が参加。法案の出自を知る権利に関する部分について質問をする。
- ・ 2025年2月25日（火）DOG（AIDで生まれた人たちの自助グループ）の厚生労働省記者クラブでの記者会見の手伝い
- ・ 2025年3月6日（木）DLJ内で、法案に関する勉強会を開催
- ・ 2025年4月9日（水）特定生殖補助医療法案の訂正を求める組織が共同開催した「緊急オンラインイベント 子の出自を知る権利の保障を！」に、DLJのメンバーの石塚、仙波、柘植が登壇。500名を超える人が視聴。

(14) 新聞・雑誌掲載

- 2024年4月7日 朝日新聞デジタル「精子・卵子提供で生まれた子「出自を知る権利」どこまで法案提出へ」(石塚幸子コメント)
- 2024年12月16日 西日本新聞 「生殖議連 当事者聴取せず 「出自知る権利」法案策定過程 提供精子で出生の人ら」
- 2025年2月1-8日号 週刊現代「『他人の子』精子提供で生まれた子供の人生について」(石塚コメント)
- 2025年2月25日 TBS News DIG 「何をどこまで知るかは子どもが決めるべき」第三者からの提供精子・卵子で生まれた子どもの「出自を知る権利」どう守る 今の法案に当事者からは「不十分」
- 2025年3月9日 週刊現代【実名告白】「精子提供者は“誰”だったのか、知りたい」… 生殖医療の技術によって45年前に生まれた女性が明かす、「育ててくれた親への複雑な思い」(石塚コメント)
- 2025年3月15日 日テレ NEWS NNN: 22年越しの提出「特定生殖補助医療法案」精子・卵子提供で生まれた子どもの権利とその家族の在り方は？(石塚コメント)
- 2025年3月21日 NHK 出自を知る権利 報告書の詳細な内容(熊本 赤ちゃんポストの報告書)(森コメント)
- 2025年3月21日 朝日新聞: 「国は法制化の検討を」慈恵病院と熊本市、出自を知る権利で報告書(森コメント)
- 2025年4月10日 毎日新聞: 「出自を知る」保障を 生殖補助医療、法案修正を求めイベント 2025年5月号 雑誌『世界』 石塚幸子: 特定生殖補助医療法案と「出自を知る権利」
- 2025年4月11日 DIAMOND Online: 後編 国際ジャーナリスト 大野和基: 私のお父さんは誰? 慶大病院「精子提供」で生まれた人が訴える切実な理由(2月11日のリレートークでの当事者発言が掲載されている)
- 2025年4月15日 *Japan Times*: Privacy and transparency clash in debate over bill on artificial insemination
- 2025年4月29日 日本経済新聞 不妊治療巡り新法案『出自を知る権利』多面的に議論を(柘植コメント)

(15) メンバーの学会・学術シンポジウム、市民団体の講座等での報告

- 第21回 JISART シンポジウム『配偶子提供で生まれた人の出自を知る権利をめぐる問題』(6/2 仙波)

- 家族問題研究学会シンポジウム「出自を知る権利とは—AID で生まれた人の視点から」（7/13 仙波）
- かわさき市民アカデミー：いのちを支える科学と社会 「提供精子・提供卵子の利用と出自を知る権利」（10/28 仙波）
- 立教大学ゼミナール（11/12 仙波／11/19 石塚） 出自を知る権利/出生者としての体験
- 日本生命倫理学会第 36 回年次大会：公募ワークショップ（11/16-17）
【題目】提供配偶子を伴う生殖補助医療に関する法律と「出自を知る権利」:当事者支援として何が必要かの検討 オーガナイザー:柘植あづみ
 - 「出自を知る権利」をめぐる 日本の現状とスウェーデンの現状 （柘植）
- ■特定生殖補助医療に関する法律案と出自を知る権利—豪ヴィクトリア州の場合—（仙波）
- 第 28 回日本診療内科学会学術大会「生殖医療と倫理」（12/8 仙波）
- 上智大学生命倫理研究所シンポジウム 仙波（2025/1/30）
- 特定生殖補助医療に関する運用検討小委員会への就任（委員長：久慈、委員：石塚、才村、仙波）
- Third Party Reproduction: Governance, Relatedness & Globalization hosted by the Department of Sociology, Taiwan University (10/18-19)
 - "Aging of Eggs" and Assisted Reproductive Technology: Population Policies to Combat Declining Birth Rate in Japan (Tsuge A.)
 - History of Artificial Insemination and Sperm Donation in Japan （Yui H.）
 - Donor Anonymity and Attitudes in Japanese Society Regarding Donor Information Disclosure

(16) メンバーの公表された学術論文や執筆物

- 仙波由加里 2024「提供精子で生まれた人の「出自を知る権利」『子どもの福祉と心理』Vol. 1 (論文), pp. 60-68.
- 由井秀樹 2025「出自を知る権利 その現状と歴史」『生命と倫理』12号 (論文)、87-97.
- 森和子 2025「“血縁によらない親子”の真実告知と出自を知る権利」『生命と倫理』12号 (論文)、99-108.
- 仙波由加里 2025「ドナーリンクのニーズと課題」『生命と倫理』第12号 (論文)、109-119.

(17) その他

- 2024年度から、サポート会員という会員カテゴリーを新設した。
- 2024年4月27日、オーストラリアで Donor Conception Awareness Day が開催される。これに、DLJ も日本で活動し、このイベントに協賛している組織として紹介してもらった。
- 2024年7月、DLJ の新しいリーフレットが完成。
- 正会員（実務スタッフ）に、12月より由井秀樹さんが新たに加わる。由井さんには、主に、ドナーリンクに関する研究や情報収集を担当していただく。

(V) 今後の課題

- ① 2024年度は、助成金を得られたこともあり、多くのイベントを開催することができた。しかし、こうしたイベントを開催しても、新たな会員の登録数は増えていない。
- ② オフィスの契約更新もあったが、家賃が値上がりし、オフィスレンタル料が、会の運営において大きな負担となっている。助成金などを獲得しても、多くはオフィスレンタル料などに使うことはできないため、さらに会員を増やし、会費を増やすか、寄付を集める方法を検討する必要がある。しかし、その一方で、イベント等を継続して行うためにも、助成金の獲得などを目指す必要があるだろう。
- ③ DOG のメンバーとの交流を多く持てた1年だった。9月と2月には、DOG のメンバーが DLJ のオフィスに集まり、DLJ の活動目的の一つである当事者同士のつながり・交流の一助になっているものと思われる。
- ④ 当事者会員、特にドナーだった人の登録がないことが問題である。これを増やすためにはどうしたらいいのか検討する必要がある。
- ⑤ DNA マーカーリンク検査の精度等について、ドナーリンク判定班で検討・研究中

2024年度も、スタッフ全員がそれぞれの役割を順調にこなし、大きな問題が起こることはなかった。今後も安定した DLJ の運営のために、資金調達と、あらたなスタッフのリクルートが今後の大きな課題である。

第2期
(2024年4月1日～2025年3月31日)
決算報告書



法人名： 一般社団法人ドナーリンク・ジャパン

貸借対照表

2025 年 3 月 31 日 現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	3,291,887		
未収金	9,640		
流動資産合計		3,301,527	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			3,301,527
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		4,533,811	
当期正味財産増減額		△ 1,232,284	
正味財産合計			3,301,527
負債及び正味財産合計			3,301,527

法人名： 一般社団法人ドナーリンク・ジャパン

財産目録

2025 年 3 月 31 日 現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手元現金	△ 893,223		
GMOあおぞらネット(法人) (API) 102 法人第2	3,152,525		
三菱UFJ(法人) (API)	1,000,000		
PayPal	32,585		
未収金			
賛助会員費(SQUARE未入金)	9,640		
流動資産合計		3,301,527	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			3,301,527
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
正味財産			3,301,527

法人名： 一般社団法人ドナーリンク・ジャパン

活動計算書

2024 年 4 月 1 日 から 2025 年 3 月 31 日 まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	55,000		
賛助会員受取会費	460,000		
当事者受取会費	20,000		
サポート会員費	19,000	554,000	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	351,585	351,585	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	990,000	990,000	
4. 事業収益			
売上原価	208,000	208,000	
5. その他収益			
受取利息	1,625		
雑収益	34,508	36,133	
経常収益計			2,139,718
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
カウンセリング費	15,000		
人件費計	15,000		
(2) その他経費			
業務委託費	494,510		
謝金	243,654		
印刷製本費	77,195		
会議費	214,472		
旅費交通費	821,142		
通信運搬費	13,476		
租税公課	2,122		
支払手数料	4,897		
新聞図書費	2,830		
その他経費計	1,874,298		
事業費計		1,889,298	
2. 管理費			
(1) 人件費			
人件費計	0		
(2) その他経費			
業務委託費	53,191		
通信運搬費	84,975		
消耗品費	43,980		
賃借料	1,102,438		
租税公課	150,000		
支払手数料	23,360		
新聞図書費	1,760		
雑費	3,000		
広告宣伝費	20,000		
その他経費計	1,482,704		
管理費計		1,482,704	
経常費用計			3,372,002
当期正味財産増減額			△ 1,232,284
前期繰越正味財産額			4,533,811
次期繰越正味財産額			3,301,527

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

- (1) 棚卸資産の評価方法
棚卸資産は低価法により評価しています。原価は平均法により算出しています。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。
無形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。
- (3) 貸倒引当金の計上基準
貸倒引当金は、過去の実績、および滞留状況を基準に計上しています。
- (4) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理
施設の提供等の物的サービスを受入れは、活動計算書に計上しています。また計上額の算定方法は「3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳」に記載しています。
- (5) ボランティアによる役務の提供
ボランティアによる役務の提供は、「4. 活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳」として注記しています。
- (6) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位: 円)

科 目	ドナーリンク事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益				
1. 受取会費	0	0	554,000	554,000
2. 受取寄附金	0	0	351,585	351,585
3. 受取助成金等	0	0	990,000	990,000
4. 事業収益	208,000	208,000	0	208,000
5. その他収益	0	0	36,133	36,133
経常収益計	208,000	208,000	1,931,718	2,139,718
II 経常費用				
(1) 人件費				
カウンセリング費	15,000	15,000	0	15,000
人件費計	15,000	15,000	0	15,000
(2) その他経費				
業務委託費	494,510	494,510	53,191	547,701
謝金	243,654	243,654	0	243,654
印刷製本費	77,195	77,195	0	77,195
会議費	214,472	214,472	0	214,472
旅費交通費	821,142	821,142	0	821,142
通信運搬費	13,476	13,476	84,975	98,451
消耗品費	0	0	43,980	43,980
賃借料	0	0	1,102,438	1,102,438
租税公課	2,122	2,122	150,000	152,122
支払手数料	4,897	4,897	23,360	28,257
新聞図書費	2,830	2,830	1,760	4,590
雑費	0	0	3,000	3,000
広告宣伝費	0	0	20,000	20,000
その他経費計	1,874,298	1,874,298	1,482,704	3,357,002
経常費用計	1,889,298	1,889,298	1,482,704	3,372,002
当期経常増減額	△ 1,681,298	△ 1,681,298	449,014	△ 1,232,284

会計監査報告（第2期）

決算報告につき、貸借対照表、財産目録、活動計算書を監査した結果、
適正でありましたことを報告いたします。

2025年5月10日

一般社団法人ドナーリンク・ジャパン

監査 仙波 哲夫



第3期
(2025年4月1日～2026年3月31日)
事業計画書



(I) 業務契約

- 昨年度に引き続き、株式会社 OVUS に DNA マーカーリンク検査を委託
- みんなのさいわい（あらたな会員の獲得と資金調達支援）

(II) 事業・計画

(1) 昨年度に引き続き DNA マーカーリンク検査を使ったドナーリンク関連業務の実践

(2) 次年度に引き続き、会員の募集、および登録情報の管理等

(3) 書籍の出版および出版特別イベントの企画

- 書籍タイトル：『私は何者かを知りたい』
- 出版社：晃洋書房
- 刊行予定：2025 年 6 月下旬～7 月上旬

この書籍の出版後に、出版特別イベントの開催を予定

(4) 三菱財団の助成によるプロジェクトの遂行（専門家に向けたハンドブックの作成）

2024 年 3 月に開催した専門家のためのワークショップでの内容を踏まえながら、ドナーリンクにかかわる専門家（ソーシャルワーカーやカウンセラー、心理士、医療者など）をターゲットとするハンドブックを作成。

担当：才村眞理、森和子、青木紀久代

(5) イベントの開催企画

- DLJ に登録している一般会員（当事者会員）の体験や思いを録音し、随時紹介。
- 7 月～8 月：書籍出版の記念イベント
- 研究者や学生を対象とした無料の勉強会の開催（随時）
- ドナーリンクに関心を持つ専門家のための勉強会
- その他、必要に応じて

(6) 助成金の申請

- 7 月～8 月：Australia-Japan Foundation の日豪交流基金に、オーストラリアの研究者や当事者と一緒に応募の予定（オーストラリア側：Cal Volks さん（カウンセラー）、Ian Smith（研究者・精子ドナー）らと一緒に）
- 11 月～12 月：Soil x Policy Fund 政策提言事業へ再度挑戦の予定
- その他、DLJ と親和性のある助成事業を、みんなのさいわいのメンバーの方にも支援してもらいながら探し、応募を検討。

(7) HP の充実

- 情報の更新
- 会員のためのページの充実
- 英語ページの充実

(8) NL の発行

引き続き、NL の発行と内容の充実

(9) メディア対応

(10) AID や卵子提供での出生者の権利や幸福のために、よりよい法整備を求めて、政治家などに向けたロビー活動を展開

(11) ボランティアの導入を検討

東原さん（元みんなのさいわい）

(12) DLJ の社会的認知を高めるための活動の展開

- DLJ の活動を一言で表せるようなスローガンを考える
 - 一般の知らない人に伝える（キャッチーなフレーズ）
- DLJ の広報（チラシの配布や、定期的な情報の発信）
- SNS のさらなる利用
- メールマガジンの発行の検討
- メンバーは機会があれば、多くの場で、DLJ の活動や「出自を知る権利」の重要性などについて話をする
- その他、適宜必要に応じて

(Ⅲ) 今後の展望

- (1) 経費の中で最も負担となっているのが、事務所の家賃である。会員が増えず、運営費の増加があまり見込まれない場合には、事務所の変更も検討の必要がある。
または、DLJ 支援として、家賃を個人的に負担する申し出もあり、それを受けるか検討。
- (2) 今後、提供精子や提供卵子を使った生殖補助医療に関する環境をよりより方向へと導くためには、国内だけでなく、諸外国の関係者とも連携する必要があるだろう。諸外国の関係者とのネットワークづくりにも積極的に取り組んでいきたい。

- (3) 提供精子や提供卵子で生まれた人の「出自を知る権利」の重要性の認識を高め、これを尊重する社会を目指すためにも、特定生殖補助医療で子どもを持った親たちのグループや、養子関連の組織、その他、「出自を知る権利」を求める多くの人たちと連携していく必要がある。

発行日 2025 年 5 月 21 日

発行 一般社団法人 ドナーリンク・ジャパン

編集 代表理事 仙波由加里

〒194-0022

東京都町田市森野 1 丁目 36-2

Email: contact@donorlinkjp.org